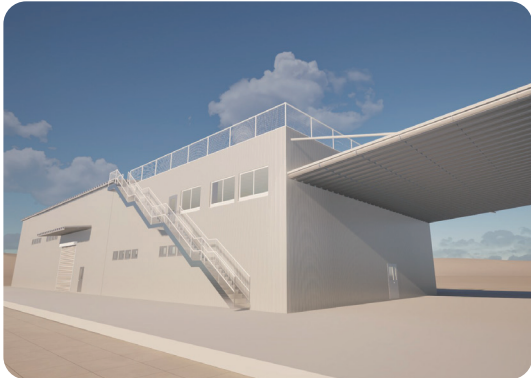




代表取締役 高野 武雄 氏

ヨシザワ想造建築株式会社

代表取締役	高野 武雄
会社住所	〒604-0857 京都市中京区烏丸通二条上ル 時給屋町280 ヤサカ烏丸御所南ビル3F
業種	BtoB／建設業
事業内容	建築物の設計・構造計算・施工・改修 耐震診断/補強・リノベーション事業
URL	https://www.y-sozo.co.jp



建材パーツに幅や奥行き・高さに加え、素材や組み立て工程（時間）なども盛り込めるため、お客様とのゴールが共有しやすく予測もしやすい。

I 事業の課題

建設業の構造的な課題とプロゆえの属人化が建築現場の大きな壁

慢性的な人手不足やノウハウの属人化といった、構造的な課題が建設業界でも深刻化しています。当社でも、ベテラン社員の知識や経験が若手に継承ができておらず、業務の効率化や技術伝承が難しい状況にありました。特に、建築関連法規や設計図書から必要な資料を検索する作業が属人化しており、知識共有の妨げとなっていました。

当社は、工場・倉庫の改修建築や耐震診断・耐震補強工事に特化した事業を展開しており、業務内容は高度な専門性が求められます。さらに、自治体ごとに建築に関する規制や条例

想造の現場から、未来への挑戦を

建築の知恵と技術を、デジタルで次世代へつなぐ

建築を通し、日本のモノづくりを支え続ける

I 事業への思い

持続可能な現場づくりを支える建築力

当社は工場・倉庫の建替・改修建築、耐震診断・耐震補強工事専門の総合建築会社です。新築や移転ではなく、いかにしてお客様の操業を止めず今ある建物や土地を有効活用し、持続可能で安全で使いやすくしていくかといったお客様の課題に真正面から向き合い、現場ごとに最適な解決策を提案し、施行させていただいております。

私たちが手がける多くの建物は、稼働を止めることが難しい中小企業の工場です。そこで働く従業員の方々にとって、工場の移転や新築は、通勤や業務環境の大きな変化、雇用への不安にもつながりかねません。だからこそ、操業を止めずに建物を補強や改修することは、事業と雇用、安心安全を守る、未来へつなぐ建築だと私たちは考えています。

構造設計の知見と現場対応力を融合し、耐震診断から補強設計、施工、法的検討までを一気通貫でサポート。事前のヒアリングから工程设计、作業エリアの区分までを丁寧に組み立てることで、操業への影響を最小限に抑えながら、安全かつ効率的に工事を進めます。

京都を拠点とし、西日本エリアを中心に、業種・規模を問わず多様なニーズにお応えしてきました。複雑で繊細な条件に対しても柔軟に対応できる高い施工技術と機動力が、当社が選ばれている理由です。

私たちは、ただ「直す」だけではなく、リノベーションによって建物に新たな機能や価値をもたらす設計的視点も大切にしています。限られた空間や資源を最大限に活かしながら、事業の未来を支える空間へと再構築する——それが、私たちの考える建築のあり方です。

が異なり、案件ごとに条件が複雑なため、正確な情報収集と判断が求められます。こうした背景が、DX化やデジタル化の導入において高いハードルとなっていました。また、従来は発注者様から既存図面を受け取り紙で出力、現場での打ち合わせや調査に活用していましたが、資源の浪費、作業時間のロスが発生。図面が雨で濡れるなど物理的な不便さ、機密文書の管理や回収、廃棄にもコストがかかるなど、アナログな手法が業務効率を妨げていました。

そうした課題意識の元、当社社長が最新のシステムに着目

する機会があり「建築に特化した仕組みを導入すれば、業務が円滑になるのではないか」との思いから社内検討が始まりました。特に、紙図面のデジタル化による省力化、資料検索の自動化、専門的なナレッジの見える化・共有といった点に期待が寄せられました。さらに、具体的な導入を検討するフェーズで補助金事業の活用ができることが後押しとなりま

I デジタル化による解決

建設業に特化した生成AI導入と建築DX推進への取り組み



図面に必要なデータや画像を随時追加更新、共有化することで業務を効率化。

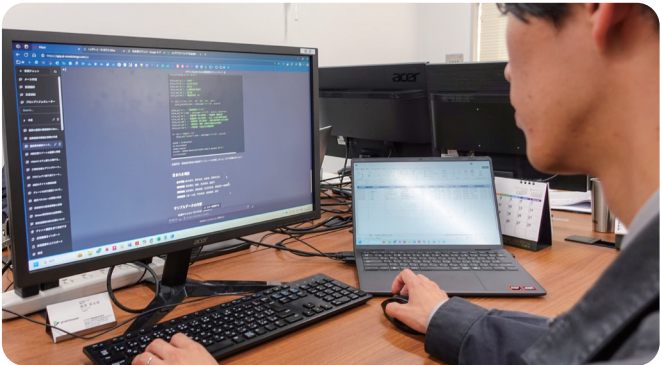
ITコーディネータの支援により、当社では漠然としていた業務課題が明確になりました。最初は議事録の自動化など小規模な効率化を検討していましたが、丁寧なヒアリングと5回にわたる相談を経て、属人化していた設計ノウハウの共有という本質的な課題に絞り込むことができました。特に、建設業に特化した生成AIの導入は、ITコーディネータの的確な助言と全体設計による後押しがあってこそ実現した大きな一歩です。この生成AIは、建設業に最適化された回答に加え、社内データの要約・応答が可能であり、セキュリティ面でも社外への機密情報漏洩のリスクがない構造となっています。

I 成果と展開

専門性を活かして日本のモノづくりを支え続けていくために

「構造建築の現場にこそDXが必要」だと考え、生成AIとiPadの導入を段階的に進めてきました。現場の紙図面をデジタル化することで、省力化やペーパーレス化を実現し図面修正や紙出力の手間が減り、現場の効率化と省力化を実現。続いて燈株式会社の協力のもと、建築に特化した生成AI「光／Hikari」の試験運用を重ねました。設計や資料作成、外国語対応など業務の様々な場面で手応えを得て、時間的な効率化が日々蓄積されています。生成AI導入後、若手社員を中心に活用が進み、資料作成や専門用語の理解支援、外国語対応など

した。属人化していたノウハウを建築に特化した生成AIによりデータベース化し、社内の誰でもアクセスができる環境を整備することで、若手でもベテランの知見を活かしながら判断・対応ができる体制を構築し、業務効率化だけでなく、持続的な成長と共に技術継承を両立させる新たなビジネススキームの構築ができると考えて取り組むこととしました。



建設に特化した生成AIに対し、チューニングを行い、日々生成精度を高めている。

建設業に特化した生成AI導入にあたり、この分野を得意とする燈株式会社と週1回のミーティングを重ねながら構築を進め、同社の開発者とも月1回のすりあわせを行い、より当社が使いやすいようにパーソナライズされた生成AI「光／Hikari」が構築されました。社内では試験導入に合わせて全社員向けのDXセミナーと操作研修を実施。これにより、人手不足が加速する中でDXによる業務効率化の重要性や、各自の中にあった課題意識が再確認されました。ITコーディネータは、単なるアドバイザーではなく、当社の変革と共に推進する「伴走者」として大きな役割を果たしていただきました。

で着実に業務効率が向上しています。開発者とは毎月のミーティングを続け、生成AIが学習と進化を重ねてきた結果、今では新入社員や外国人技術者の即戦力化にも貢献しています。2ヶ月に1度の社内研修を通じてDXの浸透も進みつつあります。これからも業界のパイオニアとして、建築知識と技術継承と現場力の強化を両立させ、次世代が建築を担うベースをDXで築き、今後はさらに「攻めの活用」例えばプレゼン資料生成や知識の可視化、AI見積り自動作成にも取り組み、社内全体の成長と建築を通した社会への貢献につなげていきたいと考えています。